



図書館には様々な分野の本がありますが、読むより目で楽しむ芸術系の本もたくさんあります。そんな中から、本を見ているだけで世界中を旅した気分になれるような逸品ばかりを集めてみました。

お気に召すままアート本の世界にお出かけください。

『海を渡った中国の書』

中国

大阪市立美術館 (編) 728.8

今も書道を志す人たちが主に手本とするのは、中国の名だたる名筆が残した書です。米国のジョン・B・エリオットがコレクションした、素晴らしい作品の集大成が本書です。「書聖」と呼ばれるおうぎし王羲之はじめ、ほれぼれとするような書蹟ばかり。まさに眼福としか言いようがありません。

朝鮮半島

『韓国・朝鮮の絵画』

湯原 公浩 (編) 722.1

近い国であるにもかかわらず、あまり馴染みのなかった朝鮮半島の絵画作品が網羅されています。シルクロードの風が吹いてきそうな高句麗壁画、歴史と信仰が偲ばれる高麗仏画、朝鮮王朝のきらびやかな絵画など、中国・日本のものとはまた違う趣きが新鮮です。

『やまと絵：日本絵画の原点』

日本

村重 寧 (監) 721.2

中国からの影響を脱し、日本独自の絵画として花開いたのがやまと絵です。三大絵巻と言われる「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」や中世の絵師列伝など、やまと絵の主流流派となった土佐派まで紹介されています。日本の絵画の歴史を華麗な絵巻のように楽しめます。

『図説 ウィリアム・モリス』

イギリス

ダーリング・ブルース&ダーリング・常田 益代 (著) 702.3

ウィリアム・モリスがデザインした壁紙、テキスタイルの造形は今なお多くの人を魅了しています。日本の民芸運動のけん引者であった柳宗悦にも多大な影響を与えました。手仕事の温かさを失わず、室内装飾を芸術の域にまでとことん追求したモリスの生涯。美しい作品とともにいかがですか。

アメリカ

『アンディ・ウォーホル』

クラウド・ホネフ (著) 723.5

シルクスクリーンで描いたエルビス・プレスリーやマリリン・モンローのポスターは、当時の人々に衝撃を与えました。時代の潮流にうまく乗ったアンディ・ウォーホルは、自分の人生もミステリアスに演出したのかもしれない。ポップ・アートの旗手ともいえる、いかにもアートなウォーホルに出会える一冊です。

北アフリカ

『サハラ、砂漠の画廊』

野町 和嘉 (著) 720.2

世界で一番広大な砂漠、北アフリカのサハラ砂漠。8000年の長きにわたり、この地に住んだ人たちによって描き続けられてきたのが、タッシリア・ナジェール古代岸壁画です。モチーフは日々の暮らしから狩猟、動物、戦車など多岐にわたります。名もない画家たちの観察力、描写力にはただただ脱帽です。

『ゴーギャンの絵本：はだしになって』

タヒチ

結城 昌子 (文) 児童 723

フランスのアルルでゴッホと共同生活をしながら絵を描いていたゴーギャンは、二人の仲が決裂した後、南太平洋のタヒチに向かいます。この楽園で、のびのびと肌を出して生活する人々を力強いタッチで表現しました。児童書ですが、軽やかな言葉の説明がわかりやすく、誰でもタヒチ島に旅した気分になれます。

メキシコ

『フリーダ・カーロとディエゴ・リベラ』

イサベル・アルカンタラ&

サンドラ・エグノルフ (解説) 723.5

力強いまなざし、つながった濃い眉、一目見たら決して忘れることのないフリーダ・カーロの自画像。子どもの頃からとてもかんしょう癪性がきつかったと聞くと、さもありなんと思ってしまう。彼女の夫ディエゴ・リベラとのコラボ画集です。